

第二回 多摩胃ろうネットワーク 市民公開講座 ミニシンポジウム

「安心できる胃ろうのために」
多摩胃ろうネットワークのとりくみ

訪問看護ステーションの立場から

特定非営利活動法人楓の風
在宅療養支援ステーションかえでの風
野島 あけみ





しかし、そうは言っても……

- ・お腹に穴をあけて栄養を入れるなんて、人間的でない・などの受け入れがたい思い
- ・みんなと一緒に食事ができない(食事には栄養をとる以外に社交・楽しみとかの要素がある)
- ・経管栄養の注入に時間がかかる
- ・経管栄養の注入を誰がやるの
- ・介護者だって大変

ETC ……………

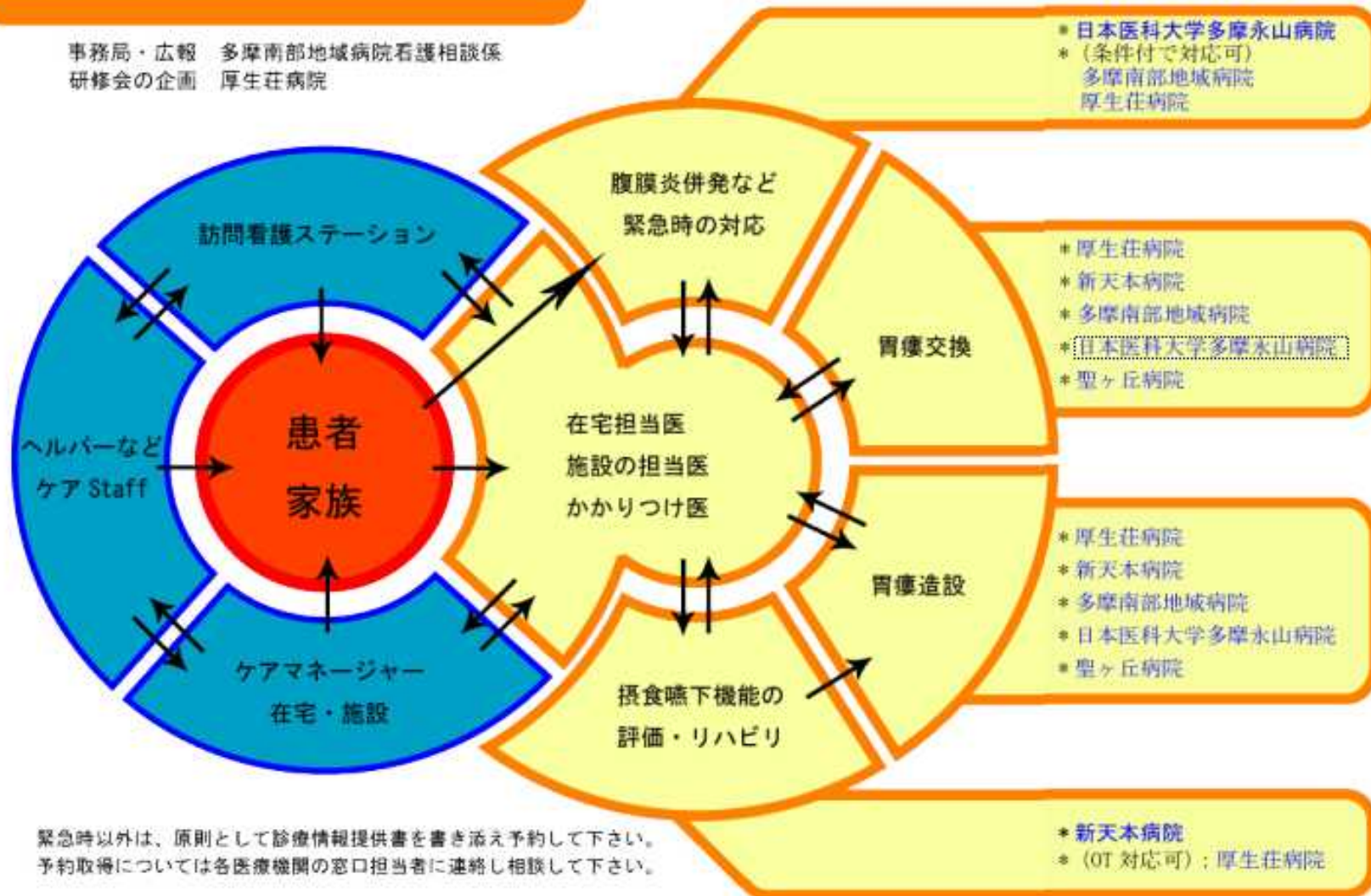


訪問看護ステーション

医療処置による制限や束縛を最小限にし、効果を最大限にする。
医療処置に縛られず、医療処置を生活の一部にする。
自分らしい生活が送れるように支援する。

多摩胃ろうネットワーク図

事務局・広報 多摩南部地域病院看護相談係
 研修会の企画 厚生荘病院



- 日本医科大学多摩永山病院
- * (条件付で対応可)
- 多摩南部地域病院
- 厚生荘病院

- * 厚生荘病院
- * 新天本病院
- * 多摩南部地域病院
- * 日本医科大学多摩永山病院
- * 聖ヶ丘病院

- * 厚生荘病院
- * 新天本病院
- * 多摩南部地域病院
- * 日本医科大学多摩永山病院
- * 聖ヶ丘病院

- * 新天本病院
- * (OT 対応可) : 厚生荘病院

緊急時以外は、原則として診療情報提供書を書き添え予約して下さい。
 予約取得については各医療機関の窓口担当者に連絡し相談して下さい。

- 在宅関係者
- 患者・家族
- ネットワークの医療機関

事例1

Kさん 82歳

脳梗塞により経口摂取不能のとなり、胃ろう造設
その後転院。3ヶ月の入院生活後84歳の夫が「自宅で過ご
させたい」と望み在宅療養開始。

問題 * 夫の介護力が乏しい
経管栄養の注入はヘルパーには行えない
* ショートステイ・デイサービスの利用制限

事例2

Gさん 76歳

脳出血で経口摂取不能となり胃ろう増設
リハビリ目的で転院、6ヶ月の入院生活後在宅療養開始

問題

- * 注入後の逆流のため時間をかけてゆっくり注入する必要があり、1日3食の注入に10時間以上かかる。
- * チューブの自己抜去の可能性があり、注入中は目を離せない、またはグローブを着用。

胃ろうネットワークにより可能となった「安心」

- * 胃ろうについていつでも相談できる窓口が出来た
- * PEGの交換を行ってくれる医療機関が明確にされた
- * 地域連携パスにより造設や交換がスムーズになる。



「安心」から「自分らしい生活へ」の課題

* 胃ろうイメージアップ

* 経管栄養の方法の工夫

* 社会参加の促進

* 介護職の胃瘻介護への参加の検討

